

1 月期：全校集会

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

2022年、令和4年がいよいよスタートしました。「1年の計は元旦にあり」とよく言われますが、皆さんは今年、どんな目標を掲げましたか。

私の今年の目標は引き続き『生徒の皆さんと先生方が楽しく学校生活を送れて、皆さんの家族や先生方の家族にも笑顔が溢れること』です。学校に楽しく通える、学校で楽しく働ける、そのことで周りにいる家族も幸せな気持ちになれる、そんな学校にしていきたいと考えています。明るく元気に、熱い想いを常に持ち続け、今年もDO MY BEST、校長としてできる限り、学校として総力をあげて皆さんを精一杯応援していこうと心に固く決めております。今年もよろしくお祈りします。

さて、新しい年を迎えましたが、まだまだウィズコロナの状態が続きます。引き続きマスクを着用して3密を避ける生活を強いられます。

ここで、現在大学2年生のある学生さんの話を紹介します。その学生さんは、2年前の入学式は中止、授業はずっとオンライン、授業が終われば友だちは皆画面から消える。お昼を一緒に食べるとか、先輩後輩との交流の機会がほとんど作れない、と嘆き悲しんでいました。本来、友だちを作ったり、人間同士が親しくなるには、「3密」は必要不可欠なはずですが、また、マスクを着用していると、相手の表情が読みにくい、または、自分の感情が伝えにくいいため、何かと誤解が生じたりしないかと心配でもあります。目や眉の動きは口元が隠れていても感情を表すことが可能です。「目は口ほどに物を言う」といったことわざがあるくらいです。人間が喜怒哀楽の感情を最も顕著に表すのが目、何もしゃべらなくとも目つきから相手の感情がわかる、そして言葉でごまかそうとしていても、目を見ればその人の本心がわかる、「目は心の窓」という言葉もあります。マスクをしながらコミュニケーションを取るため、しっかりと相手とアイコンタクトを取ることが求められる時代になりました。コロナのお陰で、今までよりも丁寧に自分の感情を相手に伝えるようになった、と言えるようになったら良いと思いました。

昨年中央高校では、中止になった行事がありました。思春期や青年期に重要であると言われる「仲間との共有体験」の機会が削られてしまいとても心配をしました。今後コロナが落ち着いてくれて、2月中旬に行われる予定の「春の行事」が無事に開催されることを切に願っています。そして、リモートやオンラインでは経験できない、リアルな交流の中で他者を思いやる心や社会性・人間性を育ててほしいと思います。

以上で校長講話を終わります。本年もよろしくお祈りします。

令和4年1月7日

校長 内木 泰志